

嘉手納飛行場における旧海軍駐機場の  
使用及びパラシュート降下訓練につい  
ての要請書

平成 29 年 7 月

沖 縄 県

知 基 第 68 号  
平成 29 年 7 月 7 日

防衛大臣

稲田 朋美 殿

沖縄県知事

翁長 雄志



嘉手納飛行場における旧海軍駐機場の使用及び  
パラシュート降下訓練について（要請）

嘉手納飛行場を巡っては、旧海軍駐機場の使用やパラシュート降下訓練の実施、外来機の度重なる飛来等、基地負担の軽減を目的とした SACO 最終報告の趣旨に明らかに反すると思われる運用が行われており、このような状況は地元自治体、県として、到底容認できるものではありません。

旧海軍駐機場については、SACO 最終報告に基づき移転が合意され、平成 29 年の 1 月に新たな駐機場への移転が実現しましたが、その後 2 月には KC-135 が、5 月には U-2 が旧海軍駐機場を使用するなど、SACO 最終報告における騒音軽減イニシアティブの趣旨がないがしろにされております。

このことは、海軍駐機場の移転により、長年にわたり昼夜を問わず苦しめられてきた航空機騒音や排気ガスの悪臭被害等が軽減されるとの地元住民の期待を大きく裏切るものであり、強い怒りを禁じ得ません。

また、パラシュート降下訓練については、SACO 最終報告に基づき平成 11 年 10 月に日米合同委員会において伊江島補助飛行場への移転が合意されたにもか

かわらず、その後、平成19年に「例外的な場合」に限り嘉手納飛行場を使用することが同委員会で確認されました。

平成29年4月、5月と立て続けに同訓練が実施され、結果的には悪天候を理由に未実施となりましたが6月にも実施が予定されるなど、地元においては、もはや例外などではなく、このまま常態化するのではないかとの強い危機感を持つに至っております。

地域住民をはじめ県民に不安を与え、また、被害を与える恐れのある嘉手納飛行場におけるパラシュート降下訓練について、これまで地元自治体、県及び県議会等が、繰り返し中止要請や抗議を行っているにもかかわらず、それを無視し訓練を強行することは、基地負担の軽減に逆行するものであり、理解が得られるものではありません。パラシュート降下訓練は、例外なくSACO最終報告の趣旨に沿って実施されるべきであります。

嘉手納飛行場を巡る米軍の一連の行為は、SACO最終報告を形骸化させ、地元との信頼関係を損ねるだけでなく、今後の嘉手納飛行場の使用、ひいては日本の安全保障体制に影響を与える恐れがあると危惧します。

ついては、沖縄の基地負担軽減を図るため、下記のとおり、強く要請いたします。

## 記

日米安全保障協議委員会において、米国側と以下の地元の要望を踏まえた協議を行なうこと。

- 1 嘉手納飛行場の旧海軍駐機場における航空機の使用を禁止すること
- 2 嘉手納飛行場におけるパラシュート降下訓練を実施しないこと

嘉手納飛行場における旧海軍駐機場の  
使用及びパラシュート降下訓練につい  
ての要請書

平成 29 年 7 月

沖 縄 県

知 基 第 68 号  
平成 29 年 7 月 7 日

外務大臣

岸田 文雄 殿

沖縄県知事

翁長 雄志



嘉手納飛行場における旧海軍駐機場の使用及び  
パラシュート降下訓練について（要請）

嘉手納飛行場を巡っては、旧海軍駐機場の使用やパラシュート降下訓練の実施、外来機の度重なる飛来等、基地負担の軽減を目的とした SACO 最終報告の趣旨に明らかに反すると思われる運用が行われており、このような状況は地元自治体、県として、到底容認できるものではありません。

旧海軍駐機場については、SACO 最終報告に基づき移転が合意され、平成 29 年の 1 月に新たな駐機場への移転が実現しましたが、その後 2 月には KC-135 が、5 月には U-2 が旧海軍駐機場を使用するなど、SACO 最終報告における騒音軽減イニシアティブの趣旨がないがしろにされております。

このことは、海軍駐機場の移転により、長年にわたり昼夜を問わず苦しめられてきた航空機騒音や排気ガスの悪臭被害等が軽減されるとの地元住民の期待を大きく裏切るものであり、強い怒りを禁じ得ません。

また、パラシュート降下訓練については、SACO 最終報告に基づき平成 11 年 10 月に日米合同委員会において伊江島補助飛行場への移転が合意されたにもか

かわらず、その後、平成19年に「例外的な場合」に限り嘉手納飛行場を使用することが同委員会で確認されました。

平成29年4月、5月と立て続けに同訓練が実施され、結果的には悪天候を理由に未実施となりましたが6月にも実施が予定されるなど、地元においては、もはや例外などではなく、このまま常態化するのではないかとの強い危機感を持つに至っております。

地域住民をはじめ県民に不安を与え、また、被害を与える恐れのある嘉手納飛行場におけるパラシュート降下訓練について、これまで地元自治体、県及び県議会等が、繰り返し中止要請や抗議を行っているにもかかわらず、それを無視し訓練を強行することは、基地負担の軽減に逆行するものであり、理解が得られるものではありません。パラシュート降下訓練は、例外なくSACO最終報告の趣旨に沿って実施されるべきであります。

嘉手納飛行場を巡る米軍の一連の行為は、SACO最終報告を形骸化させ、地元との信頼関係を損ねるだけでなく、今後の嘉手納飛行場の使用、ひいては日本の安全保障体制に影響を与える恐れがあると危惧します。

ついては、沖縄の基地負担軽減を図るため、下記のとおり、強く要請いたします。

## 記

日米安全保障協議委員会において、米国側と以下の地元の要望を踏まえた協議を行なうこと。

- 1 嘉手納飛行場の旧海軍駐機場における航空機の使用を禁止すること
- 2 嘉手納飛行場におけるパラシュート降下訓練を実施しないこと